

## D Oの環境基準不適合事例について

D Oの環境基準値は、A A、A類型が7.5mg/L以上、B、C類型が5 mg/L以上、D、E類型が2 mg/L以上である。

大阪府の公共用水域水質調査では、午後3時に最も近い採水時の試料について、D Oの測定を行っている。

平成19年度は、調査を行った1,112検体のうち45検体でD Oの環境基準を下回っていた(不適合割合4%)。淀川、神崎川、大和川水系では環境基準の不適合はなく、寝屋川水系、大阪市内河川、泉州諸河川でD Oの環境基準値を下回る値がみられた。

類型別にみると、E類型の河川水域では、環境基準の不適合はみられなかった。

## D Oの環境基準不適合状況【類型別】(平成19年度)

| 類型 | 不適合検体数 / 調査検体数 (%) | 不適合地点数 / 環境基準点数 (%) |
|----|--------------------|---------------------|
| A  | 18 / 264 (7%)      | 7 / 22 (32%)        |
| B  | 5 / 428 (1%)       | 4 / 37 (11%)        |
| C  | 16 / 180 (9%)      | 7 / 15 (47%)        |
| D  | 6 / 156 (4%)       | 4 / 13 (31%)        |
| E  | 0 / 84 (0%)        | 0 / 7 (0%)          |
| 計  | 45 / 1112 (4%)     | 22 / 94 (23%)       |

## D Oの環境基準不適合状況【水系別】(平成19年度)

| 水系     | 不適合検体数 / 調査検体数 (%) | 不適合地点数 / 環境基準点数 (%) |
|--------|--------------------|---------------------|
| 淀川水系   | 0 / 164 (0%)       | 0 / 15 (0%)         |
| 神崎川水系  | 0 / 240 (0%)       | 0 / 20 (0%)         |
| 寝屋川水系  | 6 / 108 (6%)       | 4 / 9 (44%)         |
| 大阪市内河川 | 21 / 144 (15%)     | 11 / 12 (92%)       |
| 大和川水系  | 0 / 168 (0%)       | 0 / 14 (0%)         |
| 泉州諸河川  | 18 / 288 (6%)      | 7 / 24 (29%)        |
| 計      | 45 / 1112 (4%)     | 22 / 94 (23%)       |

## S Sの環境基準不適合事例について

S Sの環境基準値は、A A～B類型で25mg/L以下、C類型で50mg/L以下、D類型で100mg/L以下、E類型では「ごみ等の浮遊が認められないこと」となっている。

大阪府の公共用水域水質調査では、6時間間隔で4回採水し、混合試料についてS Sの測定を行っている。

平成19年度は、大津川上流(B類型)及び樫井川上流(B類型)の2地点(3検体)で、S Sの環境基準値の超過がみられた。

過去5年間に環境基準の超過があった地点の状況は以下のとおりで、A類型又はB類型の地点での超過が大半を占めている。

平成19年度：2地点(B類型2地点)

平成18年度：5地点(A類型2地点、B類型3地点)

平成17年度：5地点(A類型1地点、B類型4地点)

平成16年度：3地点(B類型3地点)

平成15年度：7地点(A類型4地点、B類型2地点、C類型1地点)